第66回　東京都中学校新人柔道大会

第１回　東京都中学校新人女子柔道大会

日　時	令和２年１２月　５日（土）
	午前１０時３０分　開会宣言
会　場	東京武道館大道場
主　催	東 京 都 中 学 校 体 育 連 盟
主　管	東 京 都 中 体 連 柔 道 部
後　援	（ 公財 ）東 京 都 柔 道 連 盟
	（ 公財 ）日 本 武 道 館

災い転じて福と為す

東京都中学校体育連盟柔道競技部

部　長　　髙橋　健司

部長に就任して４年目、全国の子どもたちに、よもやこのような災難が降りかかってくるとは想像もしていませんでした。７月に第３２回オリンピック競技東京大会を迎えることもできませんでした。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で２月末、突然の臨時休業 … 。１，２年生部員は、お世話になった３年生の先輩を誠実に送り出す取組を満足に行うこともできなかったと思います。新年度を迎えた矢先の緊急事態宣言の発令で、先生方はじめ、指導者の方々は経験のない事態に為す術もなく、右往左往し、ただただ無念の日々を過ごしました。

部員も柔道指導者も傷心の中、４月末に第５１回全国中学校柔道（静岡）大会、第４５回関東中学校柔道（群馬）大会、そして第５９回東京都中学校総合体育大会柔道競技大会の開催中止が発表されました。やり場のない悲しみ、胸が張り裂けそうな思いをした３年生部員の顔が今でも浮かびます … 。

６月より緊急事態宣言が解除され、社会生活や経済活動の再開とともに、中学校の現場は分散登校や時間差登校を経て、ようやく平常の活動が営まれるようになりました。部活動も自治体の活動指針に差異はありましたが、全競技にわたり、３密に気を遣いながら活動が再開されました。そして今日、第６６回東京都中学校新人柔道大会、第１回東京都中学校新人女子柔道大会を迎えることができました。

指導者の方々へ

柔道部活動での「学び」を活かし、誇りをもたせ、他の生徒の模範となるような行動をとらせてきたことは教員として、顧問として、真剣に指導してきた者として当然のこと。数々の試練を乗り越え、今回、この大会を開催できるまでに至った道のりは決して容易いものはありませんでした。そのことを出場する選手だけでなく３年生部員も含め、自分たちが果たすべきこと、遵守すべきこと、取り組んでいくことを十分に理解させてください。変わることのない誠実な指導をよろしくお願いいたします。

保護者の方々へ　　**※ 選手は帰宅後、このプログラム内容を必ず保護者に読んでもらってください。**

日頃より厚いご支援、ご信頼をいただきながら活動できることに対し、深く感謝申し上げます。ありがとうございます。お子様のこれまでの取組や努力してきた姿を目の当たりにしてきたことと思います。成果を発揮する大会を失った３年生部員保護者の悲しみの大きさは計り知れません。コロナ対策について現段階で考え得る万全の方策を立て大会を迎えました。部員たちにも「感謝」の気持ちを醸成させる絶好の機会と判断します。ご理解とご協力、そしてご助言をお願いいたします。

１，２年柔道部員たちへ　**※ 選手は帰宅後、このプログラム内容を必ず同輩、後輩に読んでもらってください。**

この期間、指導者の「教え」を基にして謙虚に、誠実に努力してきたことでしょう。いつかいつかと待ちわびながら、黙々とトレーニングをしていた君たちの姿が目に浮かびます。試合もなくなるんじゃないかと不安の中、それでも鍛え続けていたことと思います。３年生は努力の末、苦しい思いをして得た競技力の向上を実感したり、先輩や後輩とのふれあいを通じて感謝の気持ちを学んだはずでした。メインの大会を失った３年生の心境を察すると、慰めの言葉は今でも見つかりません。だからこそ、この大会をきっかけに３年生の先輩方に恩返しをしましょう。「勝ち」「負け」がある大会ですが、試合ができる喜びを実感しましょう。選手として出場、来場できなかった同輩や後輩たちのためにも、誠意をもって大会に臨みましょう。

柔道は濃厚接触競技です。コロナ対策を万全に整えても、感染ゼロは容易に果たせません。「正しく」恐れてその徹底を図り、世の情勢を「正しく」判断して柔道活動を推進してまいります。

「わざわいてんじて ふくとなす」

嘉納治五郎師範の教えである「精力善用」「自他共栄」、改めて活かすときであると思っております。

令和２年１２月５日

競　技　役　員

競技委員長　髙橋　健司

競技副委員長　綿貫　正人　芹澤　敏光　近藤英一郎　前瀧　大吾　鈴木　茂

総務　土屋　純一　富塚　洋多　池田　和幸　山口　貴之　岡根　武志
佐渡　竜也　手島　和洋　千品　洋一　中野　謙介　鈴木　茂
佐藤　陽介　守田　久二　手塚　貢夫　岡野　英樹

会計部　◎守田　久二　〇手塚　貢夫　岡野　英樹
会計係　守田　久二　手塚　貢夫　岡野　英樹
受付係　後藤精一郎　神谷　駿一　石原　宏將　小林　伸之　奥村　忠範
接待係　守田　久二

庶務部　◎土屋　純一　〇富塚　洋多
庶務係　土屋　純一　富塚　洋多
本部記録係　土屋　純一　比田井桃有　奥村　忠範
記録係　土屋　純一
賞品係　守田　久二
筆耕係　田中　裕之

会場部　◎鈴木　茂
入場者係　富塚　洋多　池田　和幸　布施　和人　小野　宰　小池　勲
井上　裕太　原田　楽太　古谷　哲
式典係　司会→中野　謙介　金村　紘世
警備係　◎小池　毅
古谷　哲　鈴木　準平　畑野　啓子　石原　宏將　原田　楽太
消毒係　◎富塚　洋多　石原　宏將
会場整理係　※今大会は各ブロックで実施

競技部　◎山口　貴之　〇岡根　武志
進行係　佐渡　竜也　清水　大輔
選手変更係　山口　貴之（計量時のみ）　試合中は統括
救護係　（公社）東京都柔道整復師会　原　豊　和田　雅史
医　師　小林　陽一
計量係　◎岡根　武志

	第①計量	第②計量	第③計量	第④計量	第⑤計量
柔道衣コントール係	中野　謙介	佐藤　陽介	鈴木　茂	保科　知彦	松本あゆみ
計量係	伊藤　博哉	篠岡　慶昴	小池　毅	清水　大輔	比田井桃有
	大野　剛	岩渕　雄大	奥　超雄	島澤　友一	畑野　啓子
	田中　順士	佐藤　陽介	大石　眞之	金子　慶多	鈴木　準平
	小澤　侑亮				

試合場統括　◎山口　貴之　小豆畑幸紀　佐渡　竜也　田中　徳顕

〔第一〕　◎岡根　武志　〔第二〕　◎池田　和幸

○後藤精一郎　○小池　毅

〔第三〕　◎田中　徳顕　〔第四〕　◎小豆畑幸紀

○布施　和人　○神谷　駿一

◎統括　○副統括

補助役員指導　佐渡　竜也　小豆畑幸紀　田中　徳顕

補助役員　練馬区立貫井中学校

会場設営　◎小豆畑幸紀　田中　徳顕

審判部　◎鈴木　茂　○佐藤　陽介

審判長　前瀧　大吾

審判員統括　鈴木　茂　金村　紘世

審判員係　金村　紘世

審判委員　濱島　正剛　鈴木　茂　近藤英一郎　綿貫　正人

審判員

〔第一〕　○中野　謙介　松本あゆみ　上杉　伸一　伊藤　博哉　岡野　英樹

後藤精一郎　井上　裕太　山口　貴之

〔第二〕　○手島　和洋　島澤　友一　佐藤　陽介　金子　慶多　篠岡　慶昴

関根　善晴　小池　毅　小澤　侑亮

〔第三〕　○保科　知彦　布施　和人　岩渕　雄大　小池　勲　古矢　彰浩

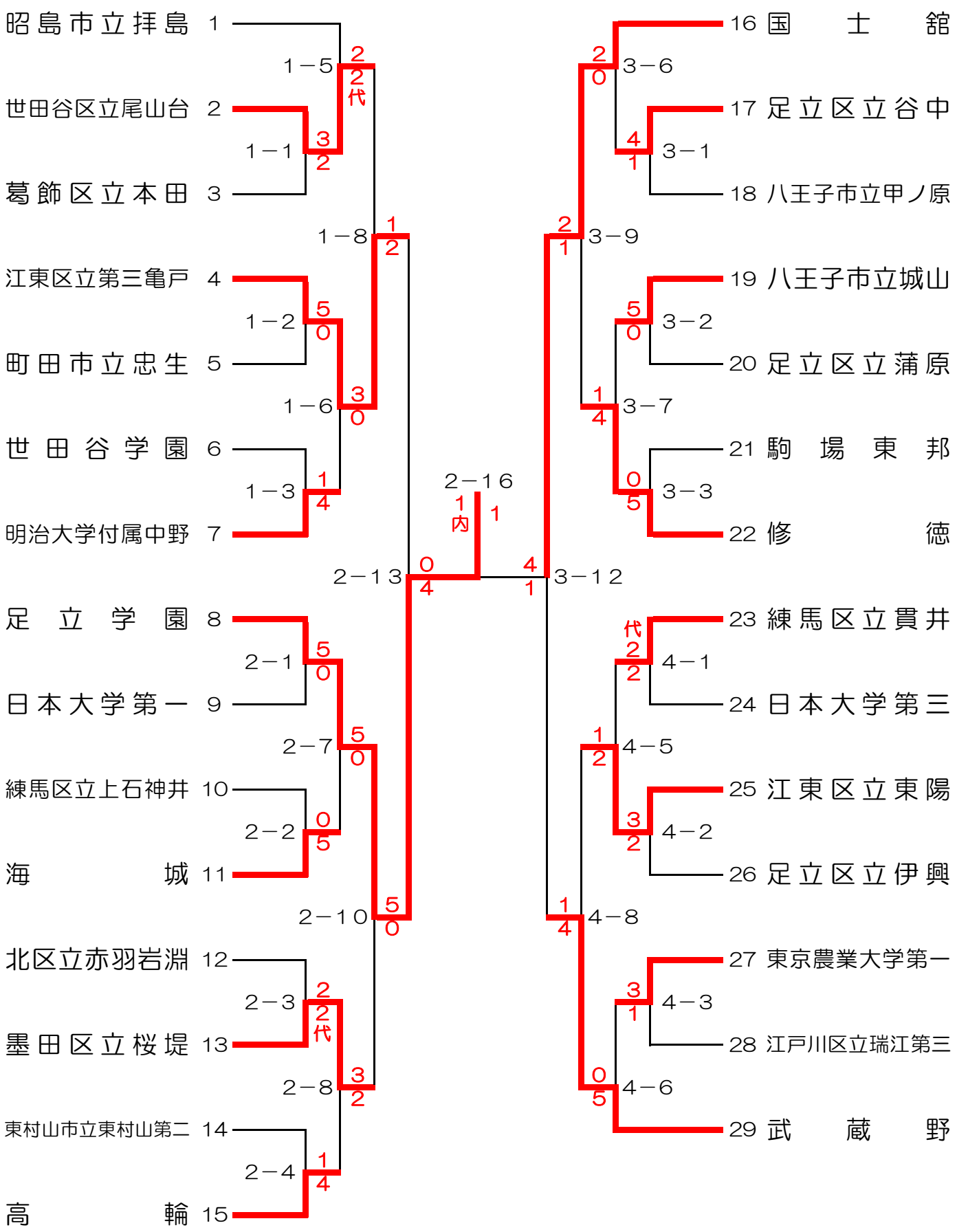
大石　眞之　小野　宰　（千品　洋一）

〔第四〕　○小林　伸之　田中　順士　相場　智也　今井　徹　奥　超雄

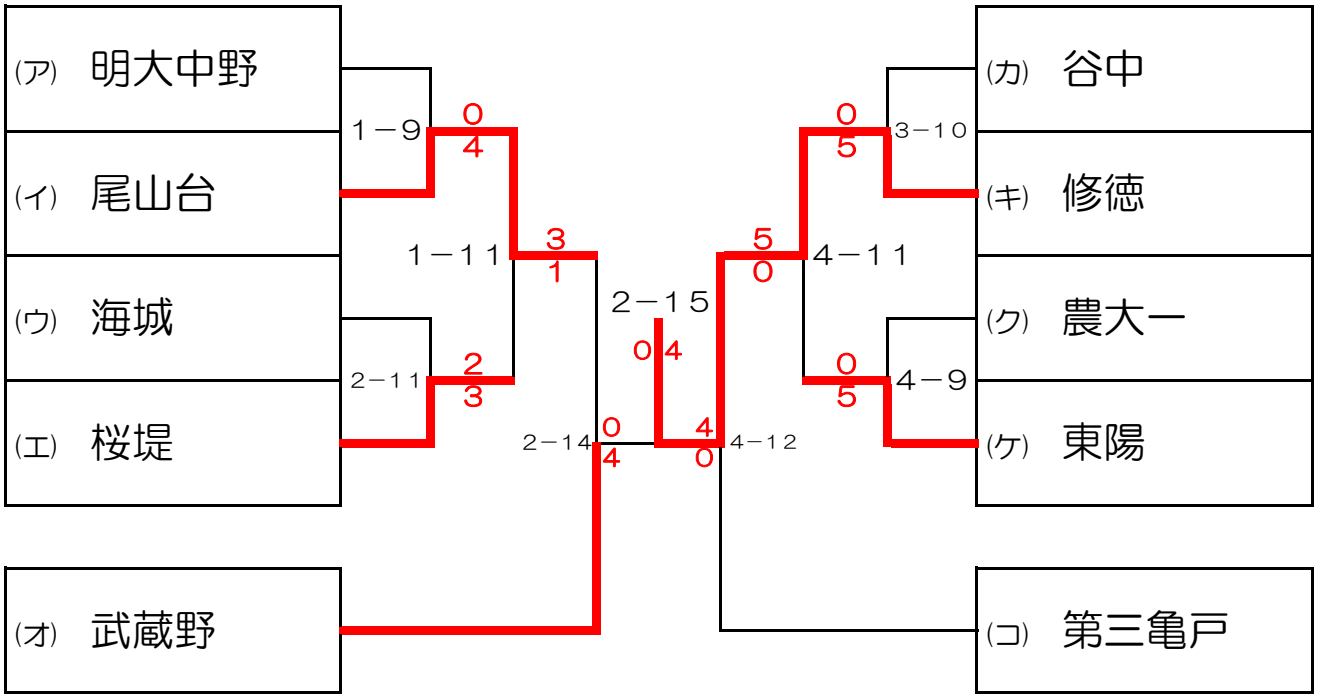
神谷　駿一　大野　剛

（　）はＰＭのみ

男子団体戦


昭島市立拝島 1
世田谷区立尾山台 2
葛飾区立本田 3
江東区立第三亀戸 4
町田市立忠生 5
世田谷学園 6
明治大学付属中野 7
足立学園 8
日本大学第一 9
練馬区立上石神井 10
海城 11
北区立赤羽岩淵 12
墨田区立桜堤 13
東村山市立東村山第二 14
高輪 15
16 国士舘
17 足立区立谷中
18 八王子市立甲ノ原
19 八王子市立城山
20 足立区立蒲原
21 駒場東邦
22 修徳
23 練馬区立貫井
24 日本大学第三
25 江東区立東陽
26 足立区立伊興
27 東京農業大学第一
28 江戸川区立瑞江第三
29 武蔵野
1－5
1－1
1－8
1－2
1－6
1－3
2－1
2－7
2－2
2－10
2－3
2－8
2－4
2－16
2－13
3－6
3－1
3－9
3－2
3－7
3－3
3－12
4－1
4－5
4－2
4－8
4－3
4－6
2
2
代
3
2
1
2
5
0
3
0
1
4
5
0
0
5
5
0
5
0
2
2
代
3
2
1
4
2
0
4
1
1
内
1
0
4
4
1
代
2
2
1
2
3
2
1
4
3
1
0
5

［順位決定トーナメント］



（ア）準決勝進出校に（１－５又は１－６）で敗れた学校

（イ）準々決勝（１－８）で敗れた学校

（ウ）準決勝進出校に（２－７又は２－８）で敗れた学校

（エ）準々決勝（２－１０）で敗れた学校

（オ）準決勝（３－１２）で敗れた学校

（カ）準決勝進出校に（３－６又は３－７）で敗れた学校

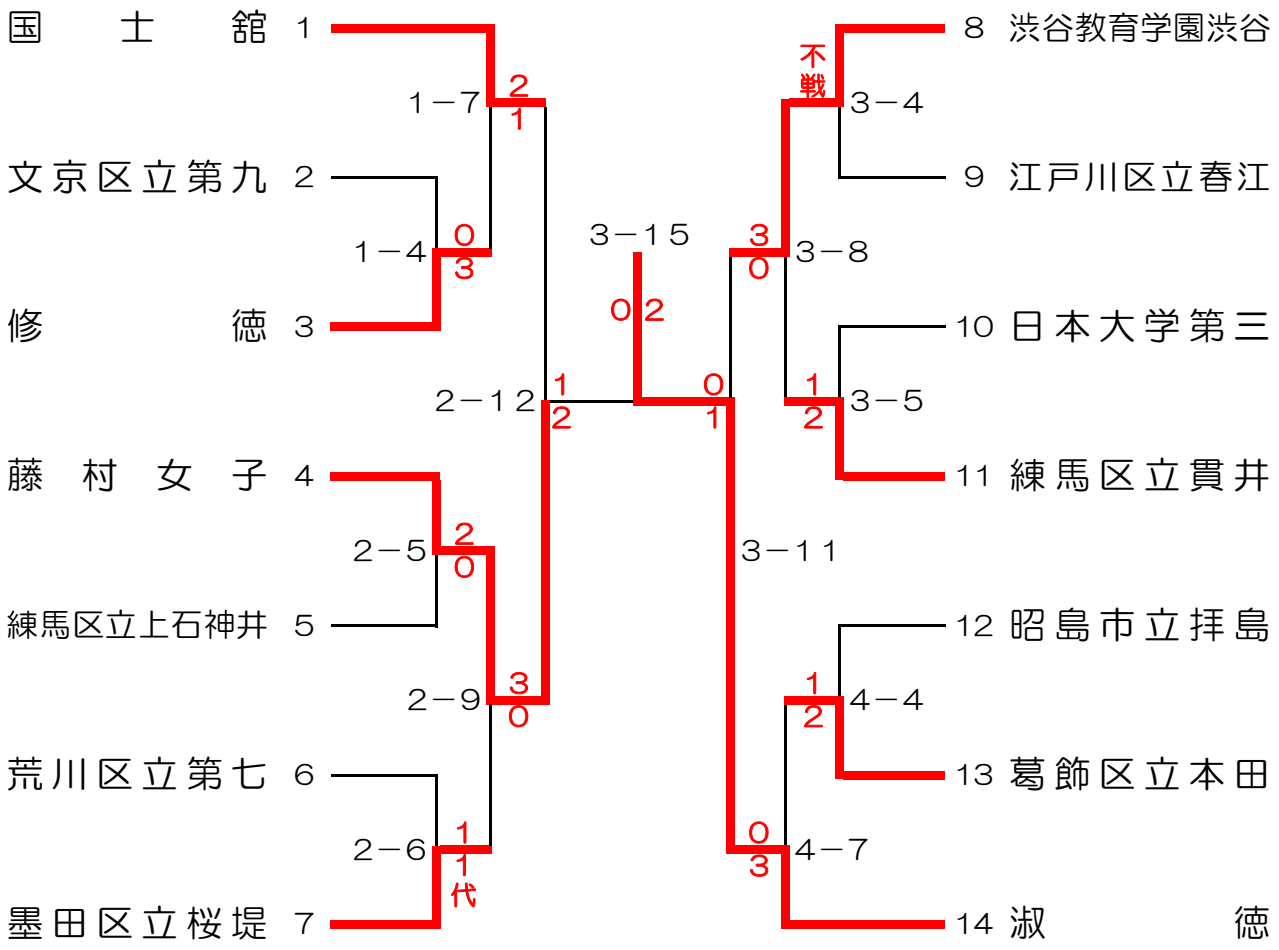
（キ）準々決勝（３－９）で敗れた学校

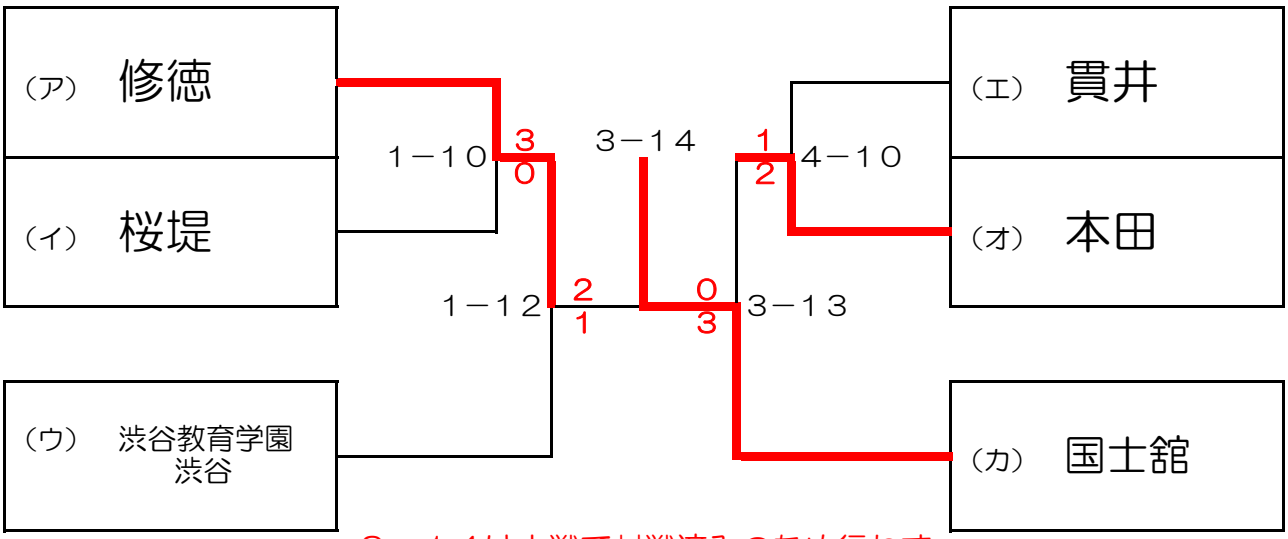
（ク）準決勝進出校に（４－５又は４－６）で敗れた学校

（ケ）準々決勝（４－８）で敗れた学校

（コ）準決勝（２－１３）で敗れた学校

女子団体戦





３－１４は本戦で対戦済みのため行わず

（ア）準々決勝（１－７）で敗れた学校

（イ）準々決勝（２－９）で敗れた学校

（ウ）準決勝（３－１１）で敗れた学校

（エ）準々決勝（３－８）で敗れた学校

（オ）準々決勝（４－７）で敗れた学校

（カ）準決勝（２－１２）で敗れた学校

団体戦　入賞校一覧

第６６回東京都中学校新人柔道大会
第１回東京都中学校新人女子柔道大会

（2020.12.05）

男子団体戦

優　勝	足立学園中学校
準優勝	国士舘中学校
第三位	修徳中学校
第三位	武蔵野中学校
第五位	世田谷区立尾山台中学校
第五位	江東区立第三亀戸中学校
第五位	墨田区立桜堤中学校
第五位	江東区立東陽中学校

女子団体戦

優　勝	淑徳中学校
準優勝	藤村女子中学校
第三位	国士舘中学校
第三位	修徳中学校
第五位	渋谷教育学園渋谷中学校
第五位	葛飾区立本田中学校
第五位	墨田区立桜堤中学校
第五位	練馬区立貫井中学校

試合進行予定表【男子団体戦・女子団体戦】

９：００開場　／９：００～１０：００受付・計量／１０：１０審判・監督会議　／１０：４０試合開始
アップ時間９：００～９：５０（１・４・５・６ブロック）　９：５０～１０：３０（２・３・多摩ブロック）

第１試合場	第２試合場	第３試合場	第４試合場
男子団体１回戦 １－１ １－２ １－３ 女子団体１回戦 １－４ 男子団体２回戦 １－５ １－６	男子団体１回戦 ２－１ ２－２ ２－３ ２－４ 女子団体１回戦 ２－５ ２－６ 男子団体２回戦 ２－７ ２－８	男子団体１回戦 ３－１ ３－２ ３－３ 女子団体１回戦 ３－４ ３－５ 男子団体２回戦 ３－６ ３－７	男子団体１回戦 ４－１ ４－２ ４－３ 女子団体１回戦 ４－４ 男子団体２回戦 ４－５ ４－６
原則２試合ごとに消毒			
消　毒　作　業			
女子団体準々決勝 １－７	女子団体準々決勝 ２－９	女子団体準々決勝 ３－８	女子団体準々決勝 ４－７
男子団体準々決勝 １－８	男子団体準々決勝 ２－１０	男子団体準々決勝 ３－９	男子団体準々決勝 ４－８
男子団体順位決定トーナメント １回戦 １－９	男子団体順位決定トーナメント １回戦 ２－１１	男子団体順位決定トーナメント １回戦 ３－１０	男子団体順位決定トーナメント １回戦 ４－９
消　毒　作　業			
女子団体順位決定トーナメント １回戦　１－１０	女子団体準決勝 ２－１２	女子団体準決勝 ３－１１	女子団体順位決定トーナメント １回戦　４－１０
男子団体順位決定トーナメント ２回戦 １－１１	男子団体準決勝 ２－１３	男子団体準決勝 ３－１２	男子団体順位決定トーナメント ２回戦 ４－１１
女子団体順位決定トーナメント ２回戦　１－１２	男子団体順位決定トーナメント ３回戦 ２－１４	女子団体順位決定トーナメント ２回戦 ３－１３	男子団体順位決定トーナメント ３回戦 ４－１２
	消　毒　作　業		☆太線は一斉開始
	男子団体３位決定戦 ２－１５	女子団体３位決定戦 ３－１４	
	男子団体決勝 ２－１６	女子団体決勝 ３－１５	

令和元年度　**事　業　報　告**　東京都中学校体育連盟柔道競技部

【大会入賞記録】

1　第１８回東京都中学校春季柔道大会　令和元年５月１９日(日)　講道館

男子の部	優　勝	準優勝	第三位	第四位
	国士舘	修徳	足立学園	武蔵野
	第五位		第七位	
	安田学園	貫井	東陽	第三亀戸
女子の部	優　勝	準優勝	第三位	
	淑徳	帝京	渋谷教育渋谷	藤村女子
	第五位		第七位	
	貫井	本田	修徳	文京第九

2　第５７回東京都中学校総合体育大会柔道大会　令和元年７月２６日(金)・２７日(土)　東京武道館

団体戦	男子		優　勝	準優勝	第三位	
			国士舘	足立学園	修徳	武蔵野
		全国大会	第３位	―――	―――	―――
		関東大会	第３位	２回戦敗退	ベスト８	２回戦敗退
			第五位		第七位	
			貫井	第三亀戸	城山	安田学園
	女子		優　勝	準優勝	第三位	第四位
			淑徳	帝京	藤村女子	渋谷教育渋谷
		全国大会	第３位	―――	―――	―――
		関東大会	第３位	第３位	ベスト８	―――
			第五位			
			国士舘	貫井	修徳	本田

個人戦男子	50kg級		優勝	準優勝	第三位	
			佐藤 星衣	馬渡 武侍	飛彈 秀真	佐々木勇弥
			日本学園	修徳	第三亀戸	東海
		全国大会	ベスト8	―――	―――	―――
		関東大会	第3位	準優勝	―――	2回戦敗退
			敢闘賞			
			星川 遼介	伊藤 颯太	藤田 一郎	川中 大輝
			足立学園	葛西第二	足立学園	貫井
	55kg級		優勝	準優勝	第三位	
			向原 潤大	安谷屋正桜	三木 隼人	関根凛太朗
			国士舘	日本大学第一	第三亀戸	足立学園
		全国大会	4回戦敗退	―――	―――	―――
		関東大会	3回戦敗退	2回戦敗退	1回戦敗退	―――
			敢闘賞			
			宮部 蓮匠	齋藤誠史郎	松井 世樹	安河内幸生
			足立学園	浜川	拝島	第四砂町
	60kg級		優勝	準優勝	第三位	
			小野 日向	後藤 琉臥	中村 碧	荒川 琉正
			足立学園	武蔵野	立川第二	足立学園
		全国大会	優勝	―――	―――	―――
		関東大会	優勝	2回戦敗退	―――	2回戦敗退
			敢闘賞			
			黒木 櫻太	紺谷 達郎	岩井 陽介	中村 漣音
			秋多	赤塚第三	府中第六	貫井
	66kg級		優勝	準優勝	第三位	
			永井 希	入倉 暖	菊池 風雅	森田 光希
			足立学園	第三亀戸	武蔵野	青梅第三
		全国大会	3回戦敗退	―――	―――	―――
		関東大会	第3位	1回戦敗退	―――	1回戦敗退
			敢闘賞			
			関根 梨翔	宮下 智博	稲山 惺也	菅澤 悠生
			足立学園	中瀬	東陽	浅間
	73kg級		優勝	準優勝	第三位	
			赤澤 飛龍	川崎 奏来	安藤 吉平	石塚 隼多
			谷中	国士舘	武蔵野第一	修徳
		全国大会	2回戦敗退	―――	―――	―――
		関東大会	第3位	3回戦敗退	―――	2回戦敗退
			敢闘賞			
			増田 光裕	長野 将大	高橋 龍虎	塩原 海斗
			修徳	明治大学中野	国士舘	府中第六

個人戦男子	81kg級		優勝	準優勝	第三位	
			笠川 智史	鈴木 拳斗	多賀 陽喜	藤井 賢治
			明治大学中野	国士舘	武蔵村山第五	桜堤
		全国大会	3回戦敗退	―――	―――	―――
		関東大会	第3位	2回戦敗退	―――	2回戦敗退
			敢闘賞			
			石堂 光輝	鏑木 克優	有川 洸平	及川 龍貴
			国士舘	足立学園	杉並和田	花畑北
	90kg級		優勝	準優勝	第三位	
			長田虎次郎	須藤 龍一	渋谷 海斗	森野 拓郎
			国士舘	加賀	日本大学第一	日野第一
		全国大会	2回戦敗退	―――	―――	―――
		関東大会	3回戦敗退	2回戦敗退	―――	2回戦敗退
			敢闘賞			
			篠原 大輝	濱田 善太	舩井 爽矢	杉山 琢飛
			国士舘	修徳	海城	立川第五
	90kg超級		優勝	準優勝	第三位	
			横手 和輝	唐木 康大	斎藤 颯太	恵良 武大
			国士舘	国士舘	安田学園	武蔵岡
		全国大会	2回戦敗退	―――	―――	―――
		関東大会	2回戦敗退	3回戦敗退	1回戦敗退	―――
			敢闘賞			
			三上 昭文	下田 幸輝	中村 宏輔	原田 恵吾
			麻布	武蔵村山第五	芝	武蔵野

女子個人戦	40kg級		優勝	準優勝	第三位	第四位
			藤原 美風	村松 優杏	倉田 愛梨	坂梨 陽世
			渋谷教育渋谷	桜川	桜堤	文京第九
		全国大会	1回戦敗退	―――	―――	―――
		関東大会	1回戦敗退	1回戦敗退	―――	―――
			敢闘賞			
			木下 音々	竝木 優乃	石井 花	
			貫井	浅川	世田谷	
	44kg級		優勝	準優勝	第三位	第四位
			宮木 果乃	高木 由有	川鍋 綾菜	田中 唯月
			修徳	淑徳	青梅第三	修徳
		全国大会	優勝	―――	―――	―――
		関東大会	優勝	準優勝	―――	―――
			敢闘賞			
			鎌田 緋奈	金 亜美	佐久間吉花	佐藤 心南
			貫井	赤羽岩淵	貫井	本田
	48kg級		優勝	準優勝	第三位	第四位
			丹羽 夏鈴	大竹詩穂梨	大平 愛	柳川 菜月
			修徳	淑徳	帝京	桜堤
		全国大会	2回戦敗退	―――	―――	―――
		関東大会	第3位	第3位	―――	―――
			敢闘賞			
			古川 澪	加藤 仁愛	石井 晴華	佐瀬 千隼
			国士舘	桜堤	伊興	渋谷教育渋谷

女子個人戦	52kg級		優勝	準優勝	第三位	第四位
			森近 颯	鈴木 詩乃	新堀 愛海	髙橋 仁那
			淑徳	上板橋第三	深川第三	修徳
		全国大会	1回戦敗退	―――	―――	―――
		関東大会	2回戦敗退	1回戦敗退	―――	―――
			敢闘賞			
			関口 莉子	荒田 帆海	小松 愛生	竹内 愛弥
			貫井	青梅新町	横山	瑞江第三
	57kg級		優勝	準優勝	第三位	第四位
			蚊口 雪乃	徳田 和華	八木咲愛子	須藤 玲加
			上板橋第三	淑徳	渋谷教育渋谷	渋谷教育渋谷
		全国大会	3回戦敗退	―――	―――	―――
		関東大会	2回戦敗退	2回戦敗退	―――	―――
			敢闘賞			
			沖田 旭燦	木内 希美	鈴木 世楽	伊藤 彩実
			国士舘	城山	昭和	渋谷教育渋谷
	63kg級		優勝	準優勝	第三位	第四位
			佐藤 美夢	宮崎 りの	村井 暁音	齊藤 咲花
			忠生	渋谷教育渋谷	貫井	和泉
		全国大会	2回戦敗退	―――	―――	―――
		関東大会	1回戦敗退	1回戦敗退	―――	―――
			敢闘賞			
			永幡 琳	斎藤 優	川﨑 未来	岡本 りお
			東久留米南	国士舘	十条富士見	小平第六
	70kg級		優勝	準優勝	第三位	第四位
			近松 麻耶	横山 凜	中村 添	反中江梨子
			淑徳	三宿	貫井	渋谷教育渋谷
		全国大会	ベスト8	―――	―――	―――
		関東大会	2回戦敗退	1回戦敗退	―――	―――
			敢闘賞			
			加藤 ゆな	村瀬 音色	清水 寧々	種市 果穏
			国士舘	桜丘	帝京	元八王子
	70kg超級		優勝	準優勝	第三位	第四位
			斉藤 美優	本川 怜奈	南雲加奈恵	稲垣 彩音
			帝京	藤村女子	日野第一	帝京
		全国大会	第3位	―――	―――	―――
		関東大会	優勝	準優勝	―――	―――
			敢闘賞			
			池田 咲	北尾 美樹	田村 千夏	本多 結
			藤村女子	目黒第八	別所	国士舘

◇第４４回関東中学校柔道大会
　　令和元年８月８日～１０日　　栃木県大田原市：栃木県立県北体育館
◇第４９回全国中学校柔道大会
　　令和元年８月１７日～２０日　　兵庫県姫路市：ウインク武道館（兵庫県立武道館）

３　第６５回東京都中学校新人柔道大会　　令和元年１０月２０日(日)　　講道館

第３０回東京都中学校新人体重別女子柔道選手権大会　第７回東京都中学校新人体重別柔道選手権大会

男子 新人団体戦	優勝	準優勝	第三位	
	国士舘	修徳	足立学園	武蔵野
	第五位			
	上石神井	第三亀戸	城山	貫井
新人女子 個人戦40ｋｇ級	優勝	準優勝	第三位	
	倉田愛梨	金野美蘭	木下音々	坂梨陽世
	桜堤	武蔵野第四	貫井	文京第九
	第五位			
	坂田杏	飯島瑛菜		
	小平第三	貫井		
新人女子 個人戦４４ｋｇ級	優勝	準優勝	第三位	
	倉田夏苗	藤原美風	土田奈美希	佐藤心南
	淑徳	渋谷教育渋谷	茗台	本田
	第五位			
	花森未奈	川島英恵	鎌田緋奈	石井花
	青梅第二	世田谷	貫井	世田谷
新人女子 個人戦４８ｋｇ級	優勝	準優勝	第三位	
	丹羽夏鈴	大平愛	古川澪	佐瀬千隼
	修徳	帝京	国士舘	渋谷教育渋谷
	第五位			
	田中侑華	馬場美鈴	宮﨑和奏	佐々木聖香
	拝島	石川	淑徳	別所
新人女子 個人戦５２ｋｇ級	優勝	準優勝	第三位	
	森近颯	小松愛生	清谷百花	櫻井毬
	淑徳	横山	本田	淑徳
	第五位			
	加越友薫	坂本奈々美	中村莉子	高橋仁那
	拝島	南成瀬	三鷹第四	修徳
新人女子 個人戦５７ｋｇ級	優勝	準優勝	第三位	
	蚊口雪乃	八木咲愛子	伊藤彩実	沖田旭燦
	上板橋第三	渋谷教育渋谷	渋谷教育渋谷	国士舘
	第五位			
	坂凛香	鈴木世楽	木内希美	飛彈美弥
	青梅第三	昭和	城山	文京第九
新人女子 個人戦６３ｋｇ級	優勝	準優勝	第三位	
	齋藤優	鈴木咲良	杉山果音	佐藤七菜
	国士舘	瑞江第三	上石神井	藤村女子
	第五位			
	森田百華	天川莉子	神麗利奈	
	青梅西	小松川第三	修徳	
新人女子 個人戦７０ｋｇ級	優勝	準優勝	第三位	
	加藤ゆな	清水寧々	種市果穏	―――
	国士舘	帝京	元八王子	―――
新人女子 個人戦70ｋｇ超級	優勝	準優勝	第三位	
	本多結	北尾美樹	田村千夏	―――
	国士舘	目黒第八	別所	―――

※40kg級、63kg級、70kg級、70kg超級については参加選手が少ないため、表彰規定により表彰

	優勝	準優勝	第三位	
新人男子 個人戦５０ｋｇ級	塚崎錬太郎	佐々木勇弥	中村紡	大下真司
	石川	東海	立川第二	足立学園
	第五位			
	米嵩千輝	伊藤悠葵	小林総一郎	福地駿太朗
	安田学園	深川第三	本郷	修徳
	優勝	準優勝	第三位	
新人男子 個人戦５５ｋｇ級	宮部蓮匠	伊藤裕次郎	荒井涼我	齋藤誠史郎
	足立学園	足立第九	稲付	浜川
	第五位			
	堀田将大	手塚凰輔	関口稜	小嶋武蔵
	桜堤	安田学園	赤塚第三	川口
	優勝	準優勝	第三位	
新人男子 個人戦６０ｋｇ級	荒川琉正	中村漣音	北村友樹	田中謙之介
	足立学園	貫井	中央ろう	世田谷
	第五位			
	内藤亮	川岸勇	菅井真人	吉田裕太
	日本大学第一	篠崎第二	第三亀戸	中台
	優勝	準優勝	第三位	
新人男子 個人戦６６ｋｇ級	嶋田圭吾	長谷川瑛希	菊池風雅	後藤朔寿
	国士舘	貫井	武蔵野	谷中
	第五位			
	上島玲	髙橋玲人	福島大和	堀内大幹
	足立第十四	上石神井	武蔵村山第五	武蔵野第五
	優勝	準優勝	第三位	
新人男子 個人戦７３ｋｇ級	久我真之介	増田光裕	笠原健太	井本悠大
	牛込第三	修徳	深川第八	日本大学第一
	第五位			
	田中蒼馬	真壁文也	清谷栄吉	雲井稟大
	本郷	国士舘	本田	足立学園
	優勝	準優勝	第三位	
新人男子 個人戦８１ｋｇ級	鏑木克優	多賀陽喜	小林一義	前田琉
	足立学園	武蔵村山第五	桜堤	城山
	第五位			
	三浦聡太	野城風輝	國分一星	竹吉瑞樹
	銀座	武蔵野	第三亀戸	国士舘
	優勝	準優勝	第三位	
新人男子 個人戦９０ｋｇ級	星國誉	栗原功季	大村丈	竹内蒼之心
	修徳	武蔵野第五	国士舘	小山
	第五位			
	深澤裕人	小久保豪人	中武諒介	安藤泰基
	本田	大森第三	瑞江第三	貫井
	優勝	準優勝	第三位	
新人男子 個人戦９０ｋｇ超級	若崎喜志	濱田善太	下田幸輝	押田祐希
	国士舘	修徳	武蔵村山第五	荒川第九
	第五位			
	谷上琉雅	古谷野和志	吉岡孝祐	本橋章太郎
	文京第六	西巣鴨	日本大学豊山	貫井

【その他】

1　東京都中学校体育連盟柔道部総会　　令和元年４月13日（土）　練馬区立貫井中学校

2　第26回講道館柔道指導者講習会　　令和元年８月16日（金）　兵庫県姫路市：ウインク武道館

3　日本中体連全国ブロック長会議　　令和２年１月11日（土）　講道館　第四会議室

国内における「少年大会特別規定」

国内における少年（中学生以下）の試合は、国際柔道連盟試合審判規定に則って行われるが、安全面を考慮し、次の条項を加え、あるいは置き換えたものによって行なうものとする。

１、加えるもの

第27条（禁止事項と罰則）

指導（軽微な違反）

１．立ち姿勢で相手の後ろ襟、背部又は帯を握ること。
　ただし、技を施すため、瞬間的（1，2秒程度）に握ることを認める。
　（注）中学生は、試合者の程度に応じて、後ろ襟を握ることを認める。

２．両膝を最初から同時に畳について背負投等を施すこと。

３．関節技及び絞技を用いること。
　（注）中学生は、絞技を用いることは認める。三角絞は認めない。

４．無理な巻き込み技を施すこと。

５．相手の頸を抱えて大外刈、払腰などを施すこと。

６．小学生以下が、裏投を施すこと。

反則負け（重大な違反）

１．攻撃・防御において、故意に相手の関節を極めること。

２．「逆背負投」（通称）の様な技を施すこと。

第27条（附則）

指導（軽微な違反）

１．〔相手の後ろ襟、背部又は帯を握ること〕関係

①「後ろ襟」とは、柔道衣を正しく着用したときの頸の後ろ側（うなじあたり）の範囲をいう。試合者の一方が後ろ襟を握った後、その襟を引き下げて側頸部にずらした場合でも「後ろ襟」とみなす。

②「背部を握る」の範囲は、目安として肩の中心線に手首がかかるような状態をいう。背部を握った後、柔道衣をたぐりよせて釣り手の一部の指が後ろ襟の内側を握る状態になっても背部とみなす。特例として「後ろ襟、又は背部を握った」状態で、通称ケンケン内股等(内股に限らずケンケンとなる大内刈や大外刈等）をかけることは、〔瞬間的（1，2 秒程度）〕の事項を適用せず、また、その後、連絡した技や変化した技についても、技の効果が途切れるまで継続を認める。

２．〔両膝を最初から同時に畳について背負投等を施すこと。〕関係

両膝を最初から畳につくとは、膝の外側部、内側部も含む。同時はもちろん、ほとんど同時と見なされる場合も含む。技が崩れた結果である場合は反則としない。

３．〔関節技及び絞技を用いること。〕関係

①寝技の攻撃・防御において、脚を交差して相手を制しているだけの状態は、三角絞とはみなさない。抑え込もうと脚を交差して相手を制止した後、絞まっている状態あるいは脊椎及び脊髄に損傷を及ぼす動作と判断した場合は、受傷を防ぐために、早めに「待て」とする。また、通称「三角固」の体勢となった時点で、危

険な状態ではないと判断しても、交差している脚を直ちに解かなければ「待て」とする。交差していた脚を直ちに解けば、寝技の攻撃・防御は継続となる。

②故意ではなかったが、関節が極まった場合は、「待て」とする。

（注）小学生以下は、絞技についても同様とする。

４．〔無理な巻き込み技を施すこと。〕関係

「無理な巻き込み」とは、軸足のバネを利かすことなく、体を利用して倒れ込むようにして巻き込んだ技をいう。

５．〔相手の頸を抱えて施す大外刈、払腰などを施すこと。〕関係

「相手の頸を抱えて施す大外刈、払腰等」とは、明らかに腕を相手の頸に巻きつけて施した場合のみをいう。

反則負け（重大な違反）

２．〔「逆背負投」（通称）の様な技を施すこと。〕関係

例えば一方の試合者が右組み、他方の試合者が左組みの体勢から、右組みの試合者が、正しく組んだ釣り手側の前襟を両手で握りながら、右足前回り捌き又は、左足後回り捌きで技を施し、相手を左方向に一回転させながら捻りを加えて、背中、又は頭から投げ落とす様な技をいう。但し、背負投を施して、相手が技を防御するために反対の肩越しに落ちた場合は含まない。

第26条（抑え込み）附則に次を加える

寝技の攻撃・防御において、脊椎及び脊髄に損傷を及ぼす動作と判断したときは「待て」とする。

２、置き換えるもの

第20条（一本）附則

絞技は、「技の効果が十分現れた場合」を適用し、見込みによる「一本」とすることができる。

３、本規定の改廃は、全日本柔道連盟審判委員会において協議し、常務理事会の承認を得て行う。

付則　この申し合わせは、平成22年5月1日より実施する。

平成23年6月14日 部分変更

平成 27 年 3 月 31 日 改正　平成 27 年 6 月 1 日より施行する。

平成 27 年 11 月 30 日 改正

国内における「少年大会特別規定」

国内における少年（中学生以下）の試合は、国際柔道連盟試合審判規定に則って行われるが、安全面を考慮し、次の条項を加え、あるいは置き換えたものによって行なうものとする。

１、加えるもの

第27条（禁止事項と罰則）

指導（軽微な違反）

１．立ち姿勢で相手の後ろ襟、背部又は帯を握ること。
　ただし、技を施すため、瞬間的（1，2秒程度）に握ることを認める。
　（注）中学生は、試合者の程度に応じて、後ろ襟を握ることを認める。

２．両膝を最初から同時に畳について背負投等を施すこと。

３．関節技及び絞技を用いること。
　（注）中学生は、絞技を用いることは認める。三角絞は認めない。

４．無理な巻き込み技を施すこと。

５．相手の頸を抱えて大外刈、払腰などを施すこと。

６．小学生以下が、裏投を施すこと。

反則負け（重大な違反）

１．攻撃・防御において、故意に相手の関節を極めること。

２．「逆背負投」（通称）の様な技を施すこと。

３．両袖を持って投げ技を施すこと。

第27条（附則）

指導（軽微な違反）

１．〔相手の後ろ襟、背部又は帯を握ること〕関係

①「後ろ襟」とは、柔道衣を正しく着用したときの頸の後ろ側（うなじあたり）の範囲をいう。試合者の一方が後ろ襟を握った後、その襟を引き下げて側頸部にずらした場合でも「後ろ襟」とみなす。

②「背部を握る」の範囲は、目安として肩の中心線に手首がかかるような状態をいう。背部を握った後、柔道衣をたぐりよせて釣り手の一部の指が後ろ襟の内側を握る状態になっても背部とみなす。特例として「後ろ襟、又は背部を握った」状態で、通称ケンケン内股等(内股に限らずケンケンとなる大内刈や大外刈等）をかけることは、〔瞬間的（1，2 秒程度）〕の事項を適用せず、また、その後、連絡した技や変化した技についても、技の効果が途切れるまで継続を認める。

２．〔両膝を最初から同時に畳について背負投等を施すこと。〕関係

両膝を最初から畳につくとは、膝の外側部、内側部も含む。同時はもちろん、ほとんど同時と見なされる場合も含む。技が崩れた結果である場合は反則としない。

３．〔関節技及び絞技を用いること。〕関係

①寝技の攻撃・防御において、脚を交差して相手を制しているだけの状態は、三角絞とはみなさない。抑え込もうと脚を交差して相手を制止した後、絞まっている状態あるいは脊椎及び脊髄に損傷を及ぼす動作と判断した場合は、受傷を防ぐために、早めに「待て」とする。また、通称「三角固」の体勢となった時点で、危険な状態ではないと判断しても、交差している脚を直ちに解かなければ「待て」とする。交差していた脚を直ちに解けば、寝技の攻撃・防御は継続となる。

国内における「少年大会特別規定」

②故意ではなかったが、関節が極まった場合は、「待て」とする。
（注）小学生以下は、絞技についても同様とする。

４．〔無理な巻き込み技を施すこと。〕関係
「無理な巻き込み」とは、軸足のバネを利かすことなく、体を利用して倒れ込むようにして巻き込んだ技をいう。

５．〔相手の頸を抱えて施す大外刈、払腰などを施すこと。〕関係
「相手の頸を抱えて施す大外刈、払腰等」とは、明らかに腕を相手の頸に巻きつけて施した場合のみをいう。

反則負け（重大な違反）
２．〔「逆背負投」（通称）の様な技を施すこと。〕関係
例えば一方の試合者が右組み、他方の試合者が左組みの体勢から、右組みの試合者が、正しく組んだ釣り手側の前襟を両手で握りながら、右足前回り捌き又は、左足後回り捌きで技を施し、相手を左方向に一回転させながら捻りを加えて、背中、又は頭から投げ落とす様な技をいう。但し、背負投を施して、相手が技を防御するために反対の肩越しに落ちた場合は含まない。
３．〔両袖を持って投げ技を施すこと。〕関係
相手の両袖を左右それぞれの手で持ったまま袖釣込腰、大外刈、外巻込等の技を施した場合をいう。
但し、相手の片袖を持って、相手に自身の片袖を持たせたまま内股等の技を施した場合は含まない。

第26条（抑え込み）附則に次を加える
寝技の攻撃・防御において、脊椎及び脊髄に損傷を及ぼす動作と判断したときは「待て」とする。

２、置き換えるもの
第20条（一本）附則
絞技は、「技の効果が十分現れた場合」を適用し、見込みによる「一本」とすることができる。

３、本規定の改廃は、全日本柔道連盟審判委員会において協議し、常務理事会の承認を得て行う。

付則　この申し合わせは、平成22年5月1日より実施する。
平成23年6月14日 部分変更
平成27年3月31日 改正　平成27年6月1日より施行する。
平成27年11月30日 申し合わせを特別規定として改正し、施行する。
平成30年3月1日 改正　平成30年4月1日より施行する。

令和２年４月１日

（公財）日本中学校体育連盟
柔道競技部ブロック長様
都道府県中学校体育連盟
柔道競技部委員長（部長）様
関係者各位

（公財）日本中学校体育連盟柔道競技部
部　長　　髙橋健司

第５１回全国中学校柔道大会静岡大会における審判規定の適用及びいわゆる「絞め落ち」に関する取り扱いについて（通知）

平素より中学校柔道の普及発展にご尽力いただき、まことにありがとうございます。
（公財）日本中学校体育連盟柔道競技部（以下日本中体連）傘下の各大会や平素の指導において、「正しい柔道」の在り方についてご理解をいただき、指導者の方々のご尽力により、その定着が進んでいることに深く感謝申し上げます。

競技においては（公財）全日本柔道連盟（以下、全柔連）より平成３０年９月に発出された「国際柔道連盟試合審判規定 2018-2020」及び全柔連が定めている国内における「少年大会特別規定」（以下「少年規定」）、「日本中体連柔道競技部主催大会申し合わせ事項」を適用して競技を運営しているところです。本年度も、４月１日より施行となる一部追記項目を含めて適用致します。

令和元年１２月１０日（火）全柔連第４回（臨時）理事会での要請を受け、「絞め技」に関する検討会議を下記の日程で実施しました。中体連としての見解と方策を全柔連に報告し、了解を得ました。

・令和２年１月１１日（土）講道館　「日本中体連柔道競技部全国ブロック長会議」（検討と見解）

＜出席者＞　中体連顧問　部長　各ブロック長（ブロック代表を含む９名）　事務局員

・令和２年１月１４日（火）全柔連　「中学生の絞め技に関する検討会」（報告と検討）

＜出席者＞　全柔連専務理事　事務局長　大会事業委員会委員長　審判委員会委員長
強化委員会委員長　医科学委員会委員長　重大事故総合対策委員会委員長
指導者養成委員会委員長　中体連柔道競技部部長　事務局員

「絞め技」は、昭和５２年度第８回全国中学校柔道大会（以下、全中大会）長野大会から解禁となり、現在まで適用されています。過去において中体連に関する大会や練習等で、「絞め技」に関する事故報告は全ブロックともありませんでしたが、前述大会で発生した、いわゆる「絞め落ち」に関する事案について、安全確保の観点から、**中体連として令和２年度全中静岡大会の競技方法について、以下を追記、適用します。**

いわゆる「絞め落ち」となった選手は、その後の一連の試合に出場することはできない。

暴力、暴言の根絶に向けて、全柔連から平成３１年２月５日付発出文書「練習等において絞め技で意識を失った場合に対応について」の文書も発出されており、**中体連としても全中大会のみならず、日頃の活動を含め、指導者及び競技者に対して以下を啓発し、その徹底を図っていただきます。**

① いわゆる「絞め落とされる」まで我慢するような考えをもたない。もたせない。絞められたら、絞め技の効果が十分に現れ、逃れられることができないと判断したら、自身が潔く「まいった」を示すようにする。

② 指導者や審判員は、絞め技の技術的構造及び少年少女大会に対する対処の仕方（アクシデントを含む）や危険な状態をしっかりと認識し、熟知するための研修会等に参加して研鑽を深める。

中体連では様々な角度からご指摘ご助言をいただき、暴力根絶、コンプライアンス等、組織を挙げて確固たる対策を講じてまいりました。格闘競技であることを認識し、内在する教育効果を最大限活かしながら、特に健康、安全については最優先とした指導、競技運営を図っております。「絞め技」は、投げ技とともに固め技における立派な柔道技術です。中体連として安全管理と適正指導が急務と判断致しました。今回の案件については、日本中体連の必要な会議に提案し、昨年度中に承認をいただきました。

平成３０年４月６日付
「第４９回全国中学校柔道大会の審判規定ならびに個人戦の勝敗決定方法について（周知）」

平成３１年４月１日付
「第５０回全国中学校柔道大会兵庫大会における審判規定の適用及び女子選手の帯の取り扱いについて（通知）」

平成３１年４月１３日付
「試合における礼法指導及び柔道衣の正しい着装の徹底について（通知）」

以前に発出しました上記通知（周知）文書とともに、適用審判規定や競技方法について、再度の周知の程よろしくお願い致します。

以　上

令和２年４月２５日（土）

東京都中学校体育連盟柔道競技部主催大会及び行事関係　柔道ルネッサンス　－ すべての選手たちへ －

明るく 朗らかで 活力があり、何事にも努力を忘れず、誠実な心づかいと 気配りができる 心身ともに 強い柔道選手 になってもらうために

柔道の試合だけ強い「スポーツバカ」にならない

きみたちは、所属する中学校、道場、柔道教室などの指導者の下で、心身ともに健全になってもらいたいという願いを込めて、さまざまな指導をいただいていると思います。都中体連柔道競技部活動におけるこの機会を通じて、いろいろと学んでもらいたいこと、確認してほしいことがあるので、よく読んで理解しましょう。

1．礼節をわきまえた「あいさつ」や「返事」が、あたりまえのようにしっかりできること。

学校の教育活動の中で「礼法」指導の項目があるのは唯一、保健体育指導領域にある武道だけです。柔道について、その「礼法」の趣旨を紹介しましょう。

> 礼は、人と交わることに当たり、まずその人格を尊重し、これに敬意を表することに発し、人と人との交際をととのえ、社会秩序を保つ道であり、礼法は、この精神をあらわす作法である。精力善用・自他共栄の道を学ぶ柔道人は、内に礼の精神を深め、外に礼法を正しく守ることが肝要である。

「礼法」を、広く「挨拶〈あいさつ〉」に置き換えましょう。

初対面でも、慣れ親しんでいても、出会ったときに、元気よく大きな声で挨拶されれば気持ちがよいものです。同時に自分自身も気持ちがうちとけて、そのあとの会話や人間関係がスムーズに進んでいきます。自ら進んでできないことが恥ずかしいことだ、ということを理解しましょう。気持ちよく応対することで、素晴らしい人間関係を築くことができます。体得しましょう。また指導されたことについてしっかりと「返事」をして反応しましょう。

2．自分の行動に節度と責任をもち、もっている力を最大限発揮すること。

みなさんは目標をもって勝ち進んできた競技者です。「柔道選手」から、将来は「柔道家」になってもらいたいと願っています。お世話になった方々に、その恩を返すためにも選手同士が良い影響を与え合い、望ましい友人関係を作りあげてください。誠実に、たくましく成長していくためにも次のことをしっかりと守りましょう。

（１）<u>生活面</u>

① 人に迷惑をかけない。人が嫌がる行動をとらない。
② 決められた時間を守る。
③ 身だしなみを整える。だらしない服装をしない。
④ 常に先を見通して、やるべきことを進んで行う。気を配った行動を心がける。
⑤ 整理整頓を心がけ、過ごしやすい環境を協力し合ってつくる。
⑥ すべての人に挨拶を心がける。

（２）<u>練習面</u>

① 声を出す場面、返事をする場面など、旺盛な気力を培うための努力をする。
② やるときはやる。休むときは休む。ケガに注意して、決して無理はせず、体調が悪ければ申し出るなど、自他共に健康や安全に気を配る。

（３）<u>試合面</u>

① 正しい礼法の所作、動作で試合に臨む。（相手と合わせ、ひと呼吸４呼間のイメージで上半身は３０°ほど腰から曲げ、左前右後の原則にしたがって自然本体で止まり、主審の「はじめ」で臨戦態勢をとってよい。）

以上、日頃の練習を通して学んだことが「柔道」の場面だけでなく、日常の学校生活や家庭生活、社会生活で活かすことが大切です。がんばりましょう！

東京都中学校体育連盟柔道競技部